

平成 26 年度
日立市環境教育活動支援事業補助金
活用団体事業報告書



日立市

日立市環境教育活動支援事業について

1 日立市環境教育基金について

平成 18 年度に新日鉱ホールディングス株式会社（現 JX 日鉱日石金属株式会社）より、新日鉱グループ 100 周年事業の一環として『子どもたちが環境や自然を学び研究するための活動に役立ててほしい』として受けた 1 億円の寄付を原資に「日立市環境教育基金」を設立しました。

2 日立市環境教育活動支援事業補助金について

子どもたちが中心となって、自然を守るための実践活動や環境に関する活動を行う団体に対し、日立市環境教育基金より、補助金を交付しています。

3 日立市環境教育活動支援事業補助金の目的

「日立市環境都市宣言」及び「日立市環境基本条例」の基本理念に沿った環境教育を推進するため、次世代を担う子供たちの環境教育活動を支援します。

4 日立市環境教育基金の活用実績

平成 18 年度より 9 年間で 48 団体のべ 166 事業に対し、約 4,090 万円の補助を行っています。

5 環境教育活動発表会について

毎年、環境教育活動支援事業補助金を活用した団体が活動内容の成果を発表する環境教育活動発表会を開催し、振り返りの機会の創出や活動団体相互の交流、環境教育自体の周知を行っています。

平成 26 年度の活動報告は、実際に環境に関する活動を行った子ども達によるステージでの発表に加え、活動をサポートした大人も交え、来場者との間で環境教育活動に関する情報の共有を図る情報交換会を行うことで、活動団体間の情報共有や今後において基金の活用を考えている団体への情報提供を行います。

目 次

1	十王川キッズクラブ	
	十王川まるごと体験	1
2	はなやま環境エコ体験隊実行委員会	
	はなやま環境エコ体験隊実行委員会	3
3	おおせ元気っ子クラブ	
	あらゆる環境を体験で学び理解しよう！！	5
4	ボーイスカウト日立第8団	
	自然を守るひとしづく活動	7
5	ひたちエコキッズ★チャレンジ	
	キッズISO14000プログラムにチャレンジ	9
6	日高小学校科学クラブ（気象観測班）	
	気象観測	11
7	日立十王緑の少年団	
	森林愛護隊事業	13
8	楡形小 十王川の生き物を守る会	
	十王川の生き物を育てよう	15
9	豊浦小学校こどもエコクラブ	
	地域の特色を生かした生活科、総合的な学習の時間の実践 ...	17
10	ホタルの棲む滑川を守る会	
	地域とともに環境づくり大作戦	19
11	中里の環境を考える会	
	夢いっぱい 笑顔いっぱい 中里っ子 育成プロジェクト	21
12	大久保学区を住みよくする会	
	大久保をきれいにし、大久保の自然に親しもう	23
13	塙山小学校 自然の森を守る会	
	自然の森環境プロジェクト	25

14	東小沢久慈川の環境を守る会 久慈川の自然を守ろう	27
15	茨城県立日立第一高等学校 日立市内の自然環境調査	29
16	茨城県立日立工業高等学校 電気自動車とモニタリングシステムの研究 省エネカー燃費競技車両の製作研究	31
17	茨城県立多賀高等学校ボランティア部 廃油キャンドルと古い傘で作ったエコバック 100万人の Candle Night	33
18	久慈小学校児童会 久慈小学校区環境保全・美化活動	35
19	日立市立助川中学校生徒会 ゴミ0（ゼロ）作戦 ～住みよい地域にするために～	37
20	油縄子の環境を美しくする会 地域花いっぱい・環境美化活動	39
21	なめかわしぜんたんけんたい 滑川地区の自然とふれあおう	41
22	大沼ビオトープを守る会 大沼小ビオトープを守ろう	43
23	成沢科学クラブ 水力発電について学ぶ	45
24	チャレンジ大久保実行委員会 チャレンジ大久保 2014	47
資料		
	日立市環境基本条例	49
	日立市環境都市宣言	56
	日立市環境教育基金に賛同いただいている団体について	57

団体名	十王川キッズクラブ				
事業名	十王川まるごと体験				
団体構成				小学生	360名
				大人	25名
				合計	385名
主な活動場所	十王川、たかはら自然塾				
事業目的	川で遊び、観察するなど、川との様々な体験から川を身近に感じてもらい、自然との関わりを学べるしかけをつくり、子どもたちが主体的に取り組む「水のエコミュージアム」を実現する。				
事業期間	平成26年5月～平成27年3月				
主な活動スケジュール	平成26年 5月18日(日) 花壇整備(子ども会) 7月4日(金) 水生生物調査(十王川) 7月13日(日) 環境バス(霞ヶ浦環境科学センター) 8月10日(日) まるごと体験(十王川おまつり広場) 11月6日(木) 鮭特別採捕・鮭ふ化(十王川) 11月24日(月) 創作体験(たかはら自然塾) 平成27年 3月3日(火) 鮭稚魚放流(十王川)				
事業に要した経費	270,000円				
事業に要した経費の内訳					
内 容	単位	数量	単価	金額	摘 要
指導員謝礼	人	2	5,000	10,000	活動指導
鮭採捕				34,000	胴長靴、網、運搬
鮭ふ化飼育管理				50,000	水槽、えさ、電気代
鮭稚魚放流	匹	5000	4	20,000	稚魚購入
メッシュベスト	個	10	3,000	30,000	
バス代	台	2		71,290	霞ヶ浦環境科学センターほか
創作活動材料				10,000	たかはら自然塾
花苗代				25,120	花壇用
印刷・写真代				19,590	チラシ、写真、コピー

活動の様子	7月4日(金) 水生生物調査	7月13日(日) 環境バス
		
	小学校総合学習で水中の生物調査。きれいな水に住む生物が多かった。	霞ヶ浦環境科学センターで十王川の水と霞ヶ浦の水の水質を比較。
	8月10日(日) まるごと体験	11月24日(月) たかはら自然塾創作活動
		
	カヌー体験、浮遊体験、水辺遊び、魚とり、水生生物調査で楽しむ。	たかはら自然塾で里山体験、そば打ち、けんちん料理体験。
11月6日(木) 鮭特別採捕・ふ化	3月3日(火) 鮭稚魚放流	
		
漁協の人たちが鮭を投網で捕獲。受精し、ふ化した稚魚を学校で飼育。	保育園、幼稚園、小学校 500人で稚魚を放流。3年から5年で戻ってくる。	
事業の効果	<ul style="list-style-type: none"> 川で遊び、親しむことから、日常生活での川との関わりを考え、実際の体験を通して、日ごろ意識していなかった地域の自然の美しさや大切さなど、発見や驚き、感動など自分自身の感覚から環境問題に関する感性を身につけることができた。 環境問題に対する意識をもつことから何をすべきかの課題が見えてきて、自ら主体的な行動へと結びつけることができた。 行動することから、川と人とのつながり、人と人とのつながりの大切さを学ぶなど、循環、共生といったことを自然に学ぶことができた。 子ども達の活動をとおして、親、周辺住民の関心も高まり、十王川を散策する人やサケの遡上を見守る人も増え、清掃活動に多くの人の協力を得られるようになった。 	

団体名	はなやま環境エコ体験隊実行委員会										
事業名	はなやま環境エコ体験隊実行委員会										
団体構成	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="text-align: right;">小学生</td> <td style="text-align: right;">24 名</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">大人</td> <td style="text-align: right;">7 名</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">合計</td> <td style="text-align: right;">31 名</td> </tr> </table>					小学生	24 名	大人	7 名	合計	31 名
小学生	24 名										
大人	7 名										
合計	31 名										
主な活動場所	塙山交流センター周辺、日立市内、山形県尾花沢市										
事業目的	子どもたちが自然環境やエコロジーなどについて学習することで、自分たちを取り巻く生活に重要な関係であることを学ばせ、自然環境を大切に作る心と活動の重要性を育む機会を与える。										
事業期間	平成26年6月～平成27年3月										
主な活動スケジュール	6月28日(土) 森山浄水場見学 7月31日(木) 風力発電と太陽光発電見学 8月5日(火)～7日(木) 山形県尾花沢市自然観察等 9月7日(日) 池の川下水処理場見学 10月18日(土) 農業体験 11月23日(日) 農業体験と収穫祭										
事業に要した経費	187,685 円										
事業に要した経費の内訳											
内 容	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要						
賃損料		1		円 130,000	山形県尾花沢市自然観察等 交通費一部負担						
農業体験体験料		2	21,000	42,000	夢ひたちファームなか里						
消耗品費	枚	389	10	3,890	コピー印刷代						
インク代	箱	2	4,622	9,244	資料印刷他						
印刷用紙	個	1	2,551	2,551	資料印刷他						

事業の様子と
効果

はなやま環境エコ体験隊では、体験を基に子どもたち自身の変化を図る事を目的として、体験活動後には、参加した感想や意見を作文として提出させ、冊子にまとめたものを3月には子どもたちへ配布しました。

●森山浄水場の見学では、川から汲みあげた水が時間をかけて濾過され、自分たちの元へ届くまでの経過を学ぶことで、蛇口をひねるだけで安全でおいしい水が飲める不自由のない生活ができていることを改めて考える事ができました。

●池の川下水処理施設の見学では、汚水処理やマンホール等のしくみを知りました。何回も浄化したきれいな水を川や海に戻していることや、水が循環している事を学ぶことで、子どもたちが水をきれいにするための努力や無駄をなくして節水を心がけるようになりました。

●エネルギー施設見学では風力・太陽光発電を見学し、その仕組みやCO²の削減、映像で温暖化現象による南極の氷がとけている様子や異常気象の原因などを学びました。子どもたちも異常気象という言葉を目にしてはいますが、詳しく知ることで、節電を心がけ、路線バスや電車などを利用するなど小さなことから自分たちができることを始めようと行動をしました。

●宿泊体験では、自然観察や銀鉦見学、ホテルの里では地域の取り組み、尾花沢特産の夏スイカの栽培方法や選果場見学など普段体験できないことを学習、自然を守るためにはどのようなことをしなければならないのかを体験をとおして学ぶ機会を得ることができました。

●農業体験や収穫祭に参加し、栽培の苦労や、収穫の楽しみ、食べ物がどのようにつくられているか体験することで、食べ物を無駄にせず大切に、大地の恵に感謝する事など多くの事を学びました。

●年間を通しさまざまな体験をとおして活動する中で、子どもたちが自ら考え行動出来るようになってきたことは大きな成果でした。



日立パワーソリューションズ大沼工場



山形県尾花沢市自然観察他



池の川下水処理場



夢ひたちファーム中里

活動の様子

7月22日地域の海岸清掃



元気っ子体験村に参加して

7月19日エコフェスひたち



持参したエコキャップ

8月21日防災体験学習施設「そなエリア東京」バス2台で見学



震災教訓の為に防災体験学習施設「そなエリア東京」で72時間をどう生き抜くか防災体験ゾーンや防災学習ゾーンで学びました。

11月8日助川山から地域を見よう！



助川山の自然を観察して森林浴！！山頂からわたしたちの住む町を見わたしてみよう！！案内指導は、助川山保全くらぶのみなさん。

事業の効果

- 環境教育活動支援事業補助金を活用することによって、あらゆる環境について学校・家庭で体験できないことを学ぶことができました。
- 郊外楽習をとおして視野を広めることができました。
- あらゆる環境について継続して学ぶことによって自然の偉大さ・大切さなど体験をとおして学ぶことができました。

団体名	ボーイスカウト日立第8団				
事業名	自然を守るひとしづく活動				
団体構成	幼稚園生・小学生・中学生・高校生 30名 大人 27名 合計 57名				
主な活動場所	小木津山自然公園など県内を中心として活動 今回は県内の海岸線及び近海、川尻町内の休耕地で活動				
事業目的	青少年の自発的活動による自然環境の保護・自然愛護の精神を持たせることを目的とする。				
事業期間	平成26年4月～9月				
主な活動スケジュール	テーマ「大地の恵み」 4月20日(日) 畑づくり、種まき 5月10日(土) 草引き、水やり 6月14日(土) 草引き、水やり 7月26日(土) 野菜の収穫 8月2日(土) 野菜の収穫 テーマ「海の恵み」 6月15日(日) 第1回海洋プランクトン調査 8月24日(日) 地曳網体験 9月28日(日) 第2回海洋プランクトン調査				
事業に要した経費	192,689円				
事業に要した経費の内訳					
内容	単位	数量	単価	金額	摘要
消耗品費	式	1		3,024	プランクトンネット工作材料費
	冊	6	108	648	ファイル代
	個	1	6,124	6,124	水質調査キット
使用料	式	1		50,000	中型船貸切費用
	式	1		86,400	地曳網体験費用
印刷費				800	コピー代
備品購入費	冊	1	2,700	2,700	プランクトン図鑑
	式	1		26,872	日よけ用タープ
原材料費	式	1		9,297	畑土・苗など
	式	1		6,824	ロープ等材料費

活動の様子

「大地の恵み」畑整備及び野菜づくり



畑を耕し、きゅうり、枝豆、トウモロコシを育てました

「海の恵み」海洋プランクトン調査と地曳網体験



海洋プランクトン調査（船の上や釣竿にネットをつけて採取します）



地曳網にはたくさんの魚が入っていました。体験後は海水浴場の海岸清掃を行いました。

事業の効果

- ・畑整備はとても大変だということを感じ取ったようです。また、収穫されたもの（自分でつくったもの）は、美味しいという感想がありました。
- ・プランクトン調査は、ネットが壊れてしまうなど観察をすることが十分にできませんでした。ただし、地曳網によりたくさんの魚が収穫でき、豊かな海（漁場）だということを感じ取ってもらえたと思います。

団体名	ひたちエコキッズ★チャレンジ										
事業名	キッズ ISO14000 プログラムにチャレンジ										
団体構成	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="text-align: right;">小学生</td> <td style="text-align: right;">136名</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">大人</td> <td style="text-align: right;">6名</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">合計</td> <td style="text-align: right;">142名</td> </tr> </table>					小学生	136名	大人	6名	合計	142名
小学生	136名										
大人	6名										
合計	142名										
主な活動場所	参加児童の学校及び家庭										
事業目的	「二酸化炭素を排出しない人づくり」を目指し、子どもたちが、地球温暖化をはじめとする環境問題を知り、何が問題で、どうすれば解決できるか、自分にできることは何かを理解し、行動を継続するきっかけとする。										
事業期間	平成26年5月～平成27年2月										
主な活動スケジュール	<p>国際芸術技術協力機構（アーテック）が運営する環境教育プログラムの子ども版である「キッズ ISO14000 プログラム」の入門編、初級編の実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 6月中旬 入門編の実施 ・ 7月中旬 入門編の評価が児童に届く ・ 7月中旬から1ヶ月間 初級編の実施 ・ 2月21日（土）国際認定証授与式へ出席（東京・赤坂） ・ 2月27日（金）日立市長を表敬訪問し受賞報告 										
事業に要した経費	520,783円										
補助事業等に要する経費の内訳											
内 容	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要						
入門編ワークブック	冊	136	円 1,500	円 204,000	児童用						
	冊	7	600	4,200	教師用						
初級編ワークブック	冊	14	3,500	49,000	児童用						
	冊	2	1,200	2,400	教師用						
事務用品				59,856	文房具						
講師料				20,000							
講師交通費				8,940							
写真代				3,615							
バス借上げ代				155,380	国際認定証授与式出席のため						
タクシー代				7,780	市長訪問						
ワークブック送付代				2,060							
傷害保険料				1,500							
振込手数料				2,052	国際認定証授与式出席のため						

活動の様子

・6月中旬に、会瀬小学校と日高小学校の2校 136人が、「キッズ ISO14000 プログラム」の入門編に取り組み、家庭での電気・ガス・水の使用量削減やごみの排出削減などの活動を計画、実践しました。

入門編のすすめかた (児童用)

氏名 _____

1. 選定 (現状チェック) 月 日 ~ 月 日

我が家の分析シート (作戦前)
 P1.0 電気の分析
 P1.4 ガス分析
 P1.6 水の分析
 P2.4 ゴみの分析
 既ができていない項目は、
 既ができていない項目は、

2. 選定 (目標、目的) 月 日 ~ 月 日

F (目的)
 具体的な作戦を立てる。
 今までできなかったことまでできるようにする。

G (実行)
 作戦を実行しながら
 メーターチェック (7日間)
 (1日目の消費量の計算)
 P1.0 電気の分析
 P1.4 ガス分析
 P1.6 水の分析
 P2.4 ゴみの分析

3. 選定 (達成、点検) 月 日

C (達成)
 我が家の分析シート (作戦前)
 作戦前と比べて〇×をつける。
 見える。

C (達成)
 P2.0 1日目の消費量をまとめる(7日間の合計)
 P2.9 7日間の合計÷1日目の平均
 → 1日1人あたりの量を算出

A (方針) 作戦を振り返りてみる
 感想
 P3.0 既ができて、既ができていなかったか?
 これからどうしたらできるか? など
 P3.1 家族の感想



・夏休み中に、さらに希望した児童が「キッズ ISO14000 プログラム」の初級編を実施しました。
 ・2月21日 (土) 国際認定証授与式



国際認定を受けた11人が国際認定証授与式に出席し、国際認定証を授与されました。また、国際認定者のうち1人が特別賞として省エネルギーセンター会長賞を受賞しました。

・2月27日 (金) 日立市長を表敬訪問し、受賞の報告をしました。



キッズ ISO14000 プログラムに取り組んだ内容、国際認定証授与式に出席した感想などについて報告しました。

事業の効果

プログラムに取り組んだ子どもたち一人ひとりが、地球温暖化をはじめとする環境問題に向き合い、問題意識を持って行動することができた。また、家族も協力して取り組んだことから、家庭内の意識も変化し、プログラム終了後も省エネの実践の継続ができています。

団体名	日高小学校科学クラブ（気象観測班）										
事業名	気象観測										
団体構成	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;">小学生</td> <td style="text-align: right;">10名</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">大人</td> <td style="text-align: right;">3名</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">合計</td> <td style="text-align: right;">13名</td> </tr> </table>					小学生	10名	大人	3名	合計	13名
小学生	10名										
大人	3名										
合計	13名										
主な活動場所	日高小学校										
事業目的	子供たちが気象を実際に観測することにより、自然環境についての理解を深める。										
事業期間	平成26年4月～平成27年3月										
主な活動スケジュール	5月27日（火） 科学クラブの発足と気象観測班の設立 5月27日（火）～6月17日（火） 書籍等を使った学習会 5月～2月 気象観測 1月20日（火） 観測結果の考察とまとめ 2月17日（火） 発表会										
事業に要した経費	45,007円										
事業に要した経費の内訳											
内 容	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要						
書籍	冊	5	3,078	15,390	気象観測のための書籍						
簡易気体検知器セット	個	1	18,585	18,585							
検知管セット	箱	2	2,415	4,830							
消耗品				6,202	報告書用文房具						

活動の様子

5月27日（火）～気象観測班の発足及び観測開始



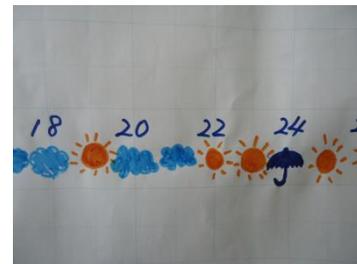
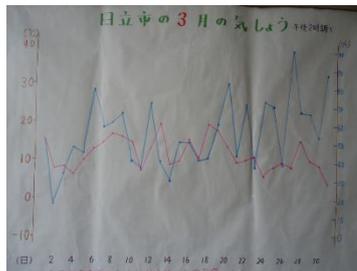
百葉箱、及び観測機器について学習しました。

5月27日（火）～2月



観測するメンバーや当番を決めて、日々の観測結果を記録していきました。

1月20日（火）～観測結果のまとめと考察



月ごとの観測結果をグラフに表しました。その日の天気と気温などの関連について、考えを出し合いました。

他の地域の気温も書き入れて、日高地区との違いも比較しました。

事業の効果

他の地域の気温等と本校では、値が違うことが分かるなど、実際に調べてみて実感することができた。人がたくさん住んでいる地域の方が、気温が高いことも分かった。原因を考えるなかで、人間が気象に与えている影響を知り、普段の生活を見直すきっかけとなった。

団体名	日立十王緑の少年団										
事業名	森林愛護隊事業										
団体構成	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="text-align: right;">小学生</td> <td style="text-align: right;">34名</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">大人</td> <td style="text-align: right;">9名</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">合計</td> <td style="text-align: right;">43名</td> </tr> </table>					小学生	34名	大人	9名	合計	43名
小学生	34名										
大人	9名										
合計	43名										
主な活動場所	日立市立山部小学校										
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・緑に親しみ、緑を大切にする心を育てる。 ・地球環境に関心を持ち、植物を愛する心を育てる。 ・ふるさと山部を愛し、住みよい郷土づくりに、積極的に活動しようとする態度を育てる。 										
事業期間	平成26年4月～平成27年3月										
主な活動スケジュール	<p>5月23日(金) 運動会で地域の高齢者に手渡す花の苗を植える土づくり</p> <p>5月30日(金) 緑の募金活動</p> <p>6月4日(水) ゴーヤの苗植え</p> <p>9月13日(土) 運動会で、地域の高齢者へ学校で育てた花と児童が書いたお礼の手紙を手渡す。</p>										
事業に要した経費	45,000円										
事業に要した経費の内訳											
内 容	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要						
			円	円							
・サルビア苗 等				3,019							
・球根(チューリップ等)				302							
・培養土	袋	10	864	8,640							
・ノーパンクタイヤ	本	3	1,004	3,012							
・一輪車[荷台用]	台	1	15,000	15,000							
・プランター	個	14	388	5,432							
・プランター受皿	個	14	334	4,676							
・インク代[5色]	個	5		4,060							
・色画用紙				1,940							
・上質紙				419							

活動の様子

5月23日(金)運動会で高齢者に渡す花苗を植える土づくりの様子



良い土ができて、花の苗が良く育つようになりました。

5月30日(金)緑の募金活動の様子



児童たちは募金が緑化活動に役立つことを理解して協力しました。

6月4日(水)

緑のカーテンづくりを目指して、ゴーヤの苗を植えている様子



児童たちは早く大きく育ててほしいと願いを込めて植えました。

9月13日(土)運動会で、地域の高齢者へ花と手紙のプレゼント



ビニール袋の中は、5月より育てたパンジーの花と色画用紙で子どもたちが書いたお礼の手紙を入れました。

高齢者の方たちは大変喜んでくれました。

事業の効果

- 植物を大切に育てていく心や態度が子どもたちに育ってきている。
- 地域の自然や高齢者の方々を大切に、山部小学校は地域によって支えられていることを、子どもたちが理解できるようになってきた。

団体名	橿形小 十王川の生き物を守る会				
事業名	十王川の生き物を育てよう				
団体構成				小学生	500名
				大人	75名
				合計	575名
主な活動場所	橿形小学校周辺（ビオトープ）及び十王川付近				
事業目的	十王川の生き物を育てながら、地域環境との関わりについて考える。				
事業期間	平成26年5月～平成27年3月				
主な活動スケジュール	5月23日（金）ホタルの幼虫の観察 6月6日（金）十王町のホタルを守る会の方からお話を聞く会 6月13日（金）ビオトープで田植え 7月1日（火）十王川水生生物観察会 7月11日（金）ホタル観察会 10月17日（金）ビオトープで稲刈り 11月6日（木）サケの採捕（十王川） 3月3日（火）サケの稚魚放流				
事業に要した経費	170,014円				
事業に要した経費の内訳					
内容	単位	数量	単価	金額	摘要
講師謝礼	人	4		12,965	
原材料費	袋	100		33,792	パンジー種子等
消耗品費					
発表用文具				25,766	模造紙、マジックペン等
掲示用文具				29,391	模造紙、写真用紙等
サケ飼育用品				32,429	水槽、ポンプ、エサ等
植物栽培用品				21,258	肥料、土、プランター等
ビオトープ用品				14,413	軍手、バケツ等

活動の様子

6月6日（金）十王川のホタルを守る会の方からお話を聞く会



ホタルの幼虫を顕微鏡で観察して、十王川のホタルを守る会の方たちから育て方や様子の説明を聞きました。

11月6日（木）サケの卵の採捕



十王川で雄と雌のサケを捕獲して受精する様子を見学しました。その受精卵を教室で育てて3月に十王川に放流します。

ビオトープで6月13日（金）田植え 10月17日（金）稲刈り



地域の農家の方に指導をしていただき、ビオトープで米作りを5年生が実施しました。

事業の効果

自然に親しみ、ホタルやサケを育てる活動を通して、自然保護の大切さや豊かな心情を養い、心身の調和のとれた発達を促すことができた。水生生物の飼育や草花の育苗などを通して、生命の尊さや不思議さを実感できた。

団体名	豊浦小学校こどもエコクラブ				
事業名	地域の特色を生かした生活科、総合的な学習の時間の実践				
団体構成	小学生 519 名 大人 50 名 合計 569 名				
主な活動場所	豊浦小学校周辺、十王川周辺				
事業目的	地域の自然に触れ、様々な体験をする中で、地域の自然環境について理解するとともに、環境問題について考え、実践する力を身につけた子どもを育てる。				
事業期間	平成26年4月～平成27年3月				
主な活動スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4月 平成26年度「こどもエコクラブ」の発足 ・ 5月 6年生「ハッピータウン豊浦プロジェクト」活動開始 ・ 6月 4年生 十王川の環境調査、課題探求活動 ・ 7月 5年生 福祉の学習 老人ホーム訪問活動、地域の福祉調べ考える活動 ・ 9月 生活科 地域体験 自然観察活動 ・ 10月～12月 活動のまとめと、情報発信 ・ 1月～3月 反省と次年度の計画 				
事業に要した経費	185,018 円				
事業に要した経費の内訳					
内 容	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
講師謝礼	人	5	190	950	講師謝礼
消耗品費					
園芸材料				39,856	球根、花苗等
実験材料				10,158	食塩、洗濯のり等
活動用具				39,989	ロープ、かご等
保護具				15,031	ビニル手袋、軍手等
文具等				72,398	模造紙、インク等
通信運搬費	枚	93		6,636	郵便切手代 (82 円×80 52 円×1 2 円×12)

ふれあい発見 わたしたちの十王川（4年生）



〈十王川の特徴や周りの環境を調査しました〉



〈市の環境政策課、十王川を楽しむ会の皆さんの協力〉

- ・十王川ウォッチング、川遊びの体験等を通して、地域の自然について詳しく調べ、きれいな十王川、地域を守っていこうとする意識を高めることができた。
- ・市の環境政策課や十王川を楽しむ会の方々に、たくさんご協力をいただき、充実した学習・活動ができた。

ハッピータウン豊浦プロジェクト（6年生）



〈環境の美化や保護について学習しました〉



〈国道沿いの花壇に花を植えました
デザインも学級で考えました〉

- ・「花いっぱい街づくり運動」として、地域の方々とともに、春と秋、国道沿いの花壇に苗を植えた。さらに、安全で人に優しい街づくりについても考えた。

事業の効果

- ・恵まれた自然環境や地域の教育力を生かし、発達段階に応じた活動をする中で、自分たちの住む地域が自然に恵まれていること、また、自分たちの生活が地域の人々に支えられていることを実感し、感謝の気持ちをもつことができた。
- ・各自が課題意識を持って取り組むことにより、環境に対する関心を高めることができた。

団体名	ホタルの棲む滑川を守る会										
事業名	地域とともに環境づくり大作戦										
団体構成	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="text-align: right;">小学生</td> <td style="text-align: right;">424名</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">大人</td> <td style="text-align: right;">48名</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">合計</td> <td style="text-align: right;">472名</td> </tr> </table>					小学生	424名	大人	48名	合計	472名
小学生	424名										
大人	48名										
合計	472名										
主な活動場所	滑川小学校周辺（校内、北川等）、理科室前観察池										
事業目的	自分たちの環境について考える豊かな心の育成										
事業期間	平成26年4月～平成27年3月										
主な活動スケジュール	<p>4月・ホタルの幼虫の放流 4月15日（火）</p> <p style="padding-left: 20px;">・ホタル少年団引き継ぎ 4月30日（水）</p> <p>5月・花壇整備</p> <p style="padding-left: 20px;">・花の苗植え、花の管理</p> <p>6月・ホタル研修会・観賞会 6月14日（土）</p> <p style="padding-left: 20px;">・ホタルの飼育</p> <p>7月・ビオトープの整備（～1月末）</p> <p style="padding-left: 20px;">・太陽光パネル設置（夏休みを利用）</p> <p>9月・運動会用プランターづくり 9月16日（火）</p> <p style="padding-left: 20px;">・ホタルの幼虫の飼育</p> <p>11月・花壇の整備、花の管理（～3月）</p> <p>3月・卒業式用プランターづくり</p>										
事業に要した経費	475,015円										
補助事業等に要する経費の内訳											
内 容	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要						
消耗品				22,991	ラシャ紙, 写真光沢紙 作品送料						
通信費				1,897							
太陽光パネル架台	式	1		61,563							
花苗代	本			41,310							
太陽光パネル一式	式	1		318,438							
食料費	食	56	216	12,096	講師食事代						
配線代	m			16,720							

活動の様子

○北川にホタルの幼虫の放流



滑川交流センターの「ホタルの里親」の方々と「ホタル少年団」のメンバーが一緒になり、9月から校内の水槽で飼育し、大きく育ったホタルの幼虫の放流を行いました。

○太陽光発電装置



・理科のおじさんと日立理科クラブの方々の協力を得て、理科室前の観察池の上に太陽光パネル2枚を設置して、太陽光発電を利用した観察池の水の循環を行うことができた。

○花いっぱい運動



・各学年の花壇づくりは、クラス全員が協力して、除草、花壇づくりから始まります。花壇整備ができれば、次に苗植えをし

事業の効果

1 ホタルの飼育について

- (1) ホタルの幼虫の飼育、放流、研修会・観賞会をとおして、地域団体（ホタルの里親）の方々と一緒に、ホタルについての知識を学び、自分たちの育てた幼虫が成虫となり、夜の北川沿いを飛ぶたくさんのホタルの姿を観察することができた。
- (2) 太陽光発電によるビオトープづくり（理科観察池）
太陽光発電による観察池の水循環と噴水づくりに取り組むことができ、2年計画で取り組んでいる太陽光発電等による「せせらぎのあるビオトープづくり」の足がかりができた。

2 花いっぱい運動

○花壇づくりと管理維持

環境委員会児童が中心となり1年をとおして、花のある学校づくりに努めることができた。

今後も、学校として、「ホタルの生育」についてさらに知識を深め、校内ビオトープを活用してのホタル飼育の実現を目指して児童一人一人にホタルを飼育することの意義を理解させるとともに、「花いっぱい運動」にも取り組み、一年をとおして児童自らが行う地域の環境整備活動として、心豊かな児童の育成に努めていきたい。

団体名	中里の環境を考える会										
事業名	夢いっぱい 笑顔いっぱい 中里っ子 育成プロジェクト										
団体構成	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="text-align: right;">小学生</td> <td style="text-align: right;">28名</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">大人</td> <td style="text-align: right;">12名</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">合計</td> <td style="text-align: right;">40名</td> </tr> </table>					小学生	28名	大人	12名	合計	40名
小学生	28名										
大人	12名										
合計	40名										
主な活動場所	日立市立中里小学校と周辺地域										
事業目的	<p>○身近な環境を大切にする心や勤労精神を養い, 豊かな心の育成を図る。</p> <p>○地域の人々との交流を通して, 学校や郷土を愛する心の育成を図る。</p>										
事業期間	平成26年4月～平成27年3月										
主な活動スケジュール	<p>5月16日(金) 田植え</p> <p>5月23日(金) 花壇草取り</p> <p>6月 3日(火) 一人一鉢栽培苗植え 花壇への植え付け</p> <p>7月 3日(木) 水生生物簡易検査</p> <p>7月14日(月) 地域への花の配布</p> <p>10月21日(火) 稲刈り</p> <p>11月 5日(水) 脱穀</p> <p>1月～2月 サケの稚魚の世話</p> <p>3月 3日(火) サケの稚魚の放流 水辺空間の清掃</p>										
事業に要した経費	90,006 円										
事業に要した経費の内訳											
内 容	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要						
講師謝礼	人	1	3,000	3,000	田植え・稲刈り時						
消耗品				26,040	植木鉢, 灌水チューブ, 散水ホース等						
原材料費				58,506	草花の種, 苗, 肥料, 種まき用土等						
燃料				2,460	耕運機ガソリン						

活動の様子

5月23日（金）花壇草取り



子どもたちと職員で花壇の草取りと事前に配色を考えた上での花の苗植えを行い、世話をしてきた。

6月3日（火）花壇への植え付け



7月14日（月）地域への花の配布



プランターでも花を育て、地域の交流センターや西部支所等へ持って行って飾ってもらった。

5月16日（金）田植え



10月21日（火）稲刈り



田植え、稲刈り、脱穀を行い、作物を育てることの大変さと収穫の喜びを味わうことができた。収穫した米は地域行事に提供した。

事業の効果

- ・様々な活動を通して、身近な環境を大切にする心や生命を尊重する心、勤労の大切さなど豊かな心を育むことができた。
- ・日立市の「花いっぱいコンクール」に応募し、『優秀賞』をいただいた。子どもたちも大変喜び、励みになった。

団体名	大久保学区を住みよくする会										
事業名	大久保をきれいにし、大久保の自然に親しもう										
団体構成	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="text-align: right;">小学生</td> <td style="text-align: right;">597名</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">大人</td> <td style="text-align: right;">38名</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">合計</td> <td style="text-align: right;">635名</td> </tr> </table>					小学生	597名	大人	38名	合計	635名
小学生	597名										
大人	38名										
合計	635名										
主な活動場所	大久保小学校とその周辺										
事業目的	<p>○児童と保護者や地域の方々と交流を広げたり深めたりしながら、ともに学校や「ふるさと大久保」の環境をきれいにする。</p> <p>○学校や地域に花を植えたり、ビオトープの作成とその管理をしたりすることを通して、自然に親しみ、地域や自然を大切にしようとする心と実践力を育てる。</p>										
事業期間	平成26年4月～平成27年3月										
主な活動スケジュール	<p>5月上旬 種まき・苗植え（サルビア・マリーゴールド）</p> <p>6月上旬 委員会発表（くさぬき隊の告知） 苗植え（ゴーヤ） 通学路クリーンアップ作戦（全校） ビオトープ清掃</p> <p>5月上旬～11月上旬 くさぬき隊（草抜き） ビオトープ観察・整備</p> <p>11月中旬～2月上旬 はっぱ隊（落ち葉掃き） ビオトープ整備</p> <p>3月上旬 苗植え（ビオラ・ノースポール）</p>										
事業に要した経費	110,014円										
事業に要した経費の内訳											
内 容	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要						
花鉢	個	30	756	22,680	環境美化						
花苗	本	60	122	7,320	花壇用						
ビオトープ用材	式	1	29,437	29,437	ビオトープ整備						
インクカートリッジ	セット	2	13,629	27,258	掲示, 広報用						
プリンタ用紙	袋	2	1,037	2,074	掲示, 広報用						
ラシャ紙	枚	90	98	9,526	掲示物, 環境整備						
色画用紙	枚	360	28	10,886	掲示物, 環境整備						
文房具				833							

活動の様子

(1) 6月上旬 ゴーヤの苗植え、委員会発表での告知



- ・日立化成から頂いたゴーヤの苗を植えました。
- ・委員会発表で、くさぬき隊の活動について全校児童に知らせました。

(2) くさぬき隊



- ・昼休みに、なかよし花壇の草ぬきをしました。
- ・熱心な園芸委員を中心に、委員会以外のボランティアも参加しました。

(3) はっぱ隊



- ・校内で落ち葉が多い場所をいくつか区切り、一日一カ所と定めて落ち葉掃きをしました。寒いのに関わらず協力的なボランティアの姿が多く見られました。

(4) ビオトープ

- ・春に、何年もほったらかしにされていたビオトープをきれいにしました。
- ・秋に落ち葉がすごかったので、春を前にまたきれいにしました。落ち葉が入らないように網をかぶせ、来春のビオトープ再生の準備をしました。落ち葉対策を考えました。



事業の効果

- ・園芸委員会の児童が中心になって声を掛け合い、多くの児童が美化活動や環境整備活動に励むようになった。また、共に活動する児童が増え、全校に広がりを見せるようになってきた。
- ・個人の活動実績の継続的な掲示や、参加回数に応じたバッジなどによる称賛が、児童の活動意欲が高まってきた。



団体名	埴山小学校 自然の森を守る会										
事業名	自然の森環境プロジェクト										
団体構成	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="text-align: right;">小学生</td> <td style="text-align: right;">186名</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">大人</td> <td style="text-align: right;">25名</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">合計</td> <td style="text-align: right;">211名</td> </tr> </table>					小学生	186名	大人	25名	合計	211名
小学生	186名										
大人	25名										
合計	211名										
主な活動場所	埴山小学校 自然の森										
事業目的	自然の森を守り、いきものを育てる活動を通して、命のつながりを実感し、自然とともによりよく生きていこうとする態度を養う。										
事業期間	平成26年4月～平成27年3月										
主な活動スケジュール	5月 9日(金) 自然の森実態調査 6月 3日(火) 学校園整備 6月13日(金) 活動計画見直し 6月27日(金) 自然の森の整備開始 10月16日(木) 自然の森の整備 12月12日(金) 球根植え付け・自然の森の整備 1月27日(火) 水路整備・導水管修理工事開始 2月13日(金) 自然の森の整備										
事業に要した経費	160,000円										
事業に要した経費の内訳											
内容	単位	数量	単価	金額	摘要						
講師謝礼	人	2		円 5,086	赤羽緑地を守る会 森林ボランティア						
消耗品				3,357							
土・腐葉土				44,442	牛ふん、腐葉土						
育苗資材				37,702	種子、育苗土						
水生生物				42,000	メダカ、水生植物						
水路工事費				27,413	掘削費、材料費						

活動の様子

12月12日（金）自然の森の整備・球根植え付け



秋までは雑草取りなどに追われましたが、冬になり枯れ枝や大小の石、不要な物を運び出しました。

自然の森の花壇には、球根を植えたプランターを並べ、来年度以降の植え付けに利用することにしました。

1月27日（火）～水路整備・導水管修理工事開始



導水管が地中で破損しているため、水路の泥上げをしても、水がほとんど流れていないことが判明。機械で掘り起こし、新しい管に取り替えました。取水部のストッパーなども作りかえました。



事業の効果

- ・自然に親しみながら、メダカや水草などを育てるための環境整備活動を通して、豊かな心情を培うとともに、地域の環境を考え、環境保全のために、自ら考え継続的に取り組んでいこうとする姿勢を養うことができた。
- ・学校園や自然の森で生物を育てたりする活動を通して、環境保全の大切さや、命のつながりを実感することができた。

団体名	東小沢久慈川の環境を守る会										
事業名	久慈川の自然を守ろう										
団体構成	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;">小学生</td> <td style="text-align: right;">45名</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">大人</td> <td style="text-align: right;">13名</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">合計</td> <td style="text-align: right;">58名</td> </tr> </table>					小学生	45名	大人	13名	合計	58名
小学生	45名										
大人	13名										
合計	58名										
主な活動場所	東小沢小学校学校周辺、久慈川										
事業目的	<p>児童が東小沢小学校の近くを流れる久慈川の水質、水生生物等の観察・調査、堤防沿いへの菜の花の栽培活動を通して、自然環境の大切さを知り、生活に生かすことができるようにする。</p>										
事業期間	平成26年6月～平成27年2月										
主な活動スケジュール	<p>6月17日（火）菜の花刈り取り 8月 8日（金）菜の花の種選別（とうみ体験） 9月 5日（金）久慈川の水生生物による水質検査 9月25日（木）菜の花の種まき 11月 7日（金）野鳥の観察 12月 6日（土）百年塾体験学習発表会（久慈川の水質、野鳥の観察・調査結果発表含む） 2月18日（水）鮭の稚魚放流体験</p>										
事業に要した経費	100,010 円										
事業に要した経費の内訳											
内 容	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要						
講師謝礼	人	1	2,160	2,160	久慈川漁業協同組合理事						
		2	5,000	10,000	久慈川漁業協同組合職員						
使用料	台			73,600	中型バス（1台・2回）						
消耗品				14,250	軍手、袋、インク、用紙						

活動の様子



菜

6月17日(火)菜の花刈り取り



鉄道の陸橋近くの菜の花畑で種の刈り取りを行いました。

9月5日(金)久慈川の水生生物による水質検査



支流の里川で水質調査のための水生生物の観察をしました。

12月6日(土)百年塾体験学習発表会



久慈川の水質、野鳥の観察・調査した結果を発表しました。

事業の効果

- 菜の花の種の採取から種まきの活動で、児童を含め地域の多くの方々が係わって保全されていることを体験し、花畑を学校自慢の一つとしています。
- 調査や観察を通して、久慈川周辺は自然豊かで、きれいな環境が保たれていることや環境保全の大切さを学習し、自然保護活動への意欲関心が高まりました。
- 体験活動から、人との関わりを通してのコミュニケーションの大切さや地域の良さを感じることができました。

団体名	茨城県立日立第一高等学校
事業名	日立市内の自然環境調査
団体構成	高校生 33名 大人 0名 合計 33名
主な活動場所	宮田川、東滑川海浜緑地ほか
事業目的	日立市内の河川、動植物、地質等の調査を行うことにより、これからの日本を生きる生徒達の自然環境保護、保全の意識を高めることを目的とする。また、本調査や研究結果を教育現場や市民に提供、還元することで、多くの人々に日立市の自然や環境の素晴らしさ、加えて問題点に関心をもってもらうことも目的とし、これらを社会での環境保護保全活動のきっかけにする。
事業期間	平成26年4月～平成27年3月
主な活動スケジュール	<p>(通年) ○宮田川等の水質調査 ○水質検査に関する研究 ○日立市東滑川緑地でのヒカリモの生態調査・研究 ○環境観測に関する研究</p> <p>(参加イベント・実施イベント等)</p> <p>6月14日 宮田川清掃ボランティア活動(化学部) 7月19日 エコフェスひたちにブース出展(化学部) 日立市環境教育活動発表会ポスター掲示(地学部) 7月27日 宮田川フィールドワーク(化学部) 7月28日～30日 第38回全国高等学校総合文化祭「いばらき総文2014」生物部 【研究発表部門・生物分野】優秀賞(全国2位) 『津波の被害をのりこえたヒカリモの能力を探る研究』 【ポスター(パネル)発表部門】奨励賞(全国4位) 『ヒカリモの黄金色の膜が一年中見られる洞穴と見られない洞穴』 8月8日 一般社団法人プラズマ・核融合学会 「第12回高校生シンポジウム」(生物部) 【口頭発表】『ヨウ素欠乏とカエルの幼生の変態』 最優秀賞 『津波の被害をのりこえたヒカリモの能力を探る研究』 奨励賞 8月11日 白聖ネイチャースクール 9月13日 文化祭でサイエンスショー実施(化学部) 9月27日 高校生理学研究発表会(千葉大学) 「COD(Mn)法における試料水中のCl⁻の本当の影響」化学部 「ヒカリモの不思議な生態の観察 ー栄養塩・光との関係」生物部 「気管の結晶生成と気象条件との関係」地学部 10月8日 皆既月食観測会(日立第一高校)地学部 11月1日 茨城県高等学校文化連盟自然科学部研究発表会 「COD(Mn)法を用いたCOD測定、その注意点と改善方法の模索」 「気管の結晶生成と気象条件の関係」 11月9日 地層見学会～ジオツアー ～講師：日立市郷土博物館研究員田切美智雄先生 11月16日 青少年のための科学の祭典北茨城大会 (北茨城市民ふれあいセンター)地学部 11月30日 青少年のための科学の祭典・日立大会 ブース出展(日立マールホール) 2月1日 サイエンスショーフェスティバルに発表者(化学部) 及びブース出展者(地学部)として参加(シビックセンター) 3月28日 化学部「第4回つくば科学研究コンテスト兼茨城県高校生科学研究発表会」にて「COD(Mn)法を用いたCOD測定での異常値に関する研究」を発表し、ベストポスター賞を受賞。</p>

事業に要した経費	150,000 円				
事業に要した経費の内訳					
内 容	単 位	数 量	単 価	金 額	適 用
環境水質計測機器関連消耗品				40,244	pH 電極、ORP 電極等 パックテスト等
環境水質調査関連薬品類				66,518	
理科教育活動関連薬品				43,238	

活動の様子

(通年) 宮田川等の水質調査・水質検査に関する研究
 7月27日(日)
 ○宮田川フィールドワーク(写真左)
 仲町コミュニティセンター付近等をフィールドワークして、宮田川を体感。
 ○採取した河川水の分析風景(写真右)
 この分析で浮かび上がった問題点を研究していった。



3月28日(土)
 第4回つくば科学研究コンテスト兼茨城県高校生科学研究発表会にて
 化学部が「COD (Mn) 法を用いたCOD測定での異常値に関する研究」を
 発表し、ベストポスター賞を受賞。

2月 1日(日)
 サイエンスショーフェスティバルに発表者として参加(右写真)。



事業の効果

現象・事象を科学的に観察・考察する機会を持つことによって、自然科学に対する興味・関心の向上だけでなく生徒たちが居住・通学している日立地域の環境実態を把握することにより、生徒たちの環境保護意識の高揚と、今後の地域での継続的な環境保護活動・研究活動に取り組むきっかけとなった。また、理科教育活動の観点では、さまざまなイベント等を通して年少者に対する実験演示等を行うことで、社会での科学教育の重要性を体感することが出来た。

団体名	茨城県立日立工業高等学校										
事業名	電気自動車とモニタリングシステムの研究・省エネカー燃費競技車両の製作研究										
団体構成	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="text-align: right;">高校生</td> <td style="text-align: right;">20 名</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">大人</td> <td style="text-align: right;">3 名</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">合計</td> <td style="text-align: right;">23 名</td> </tr> </table>					高校生	20 名	大人	3 名	合計	23 名
高校生	20 名										
大人	3 名										
合計	23 名										
主な活動場所	日立工業高校										
事業目的	ものづくりの醍醐味と、環境・エネルギー問題について考える。										
事業期間	平成26年4月～平成27年3月										
主な活動スケジュール	<p>4・5月 マシン設計・フレーム製作 溶接練習・エンジン加工・電気自動車回路製作資料収集</p> <p>7・8月 (夏休み) ボディー製作 電装系の製作・走行練習</p> <p>9月 Honda エコマイレージチャレンジ2014 第34回全国大会 電気自動車モータ・ドライブ回路製作</p> <p>10月 第23回茨城県省エネカー燃費競技大会 電気自動車フレーム製作(自動車部)</p> <p>12月 第5回北関東高校生電気自動車大会に参加</p>										
事業に要した経費	375,000 円										
事業に要した経費の内訳											
内 容	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要						
チューブジョイント				4,933							
シールワッシャ				1,404							
加減圧制御バルブ				10,759							
チェックバルブ				3,996							
レギュレーター				13,241							
燃料チューブ等				4,138							
モーター組み立てキット他				46,656							
タイヤ・チューブ代				29,192							
バッテリー・モータドライブ回路ほか				46,008							
リンクボール・ロッドエンド・自転車				38,940							
各種スイッチほか				16,291							
各種スイッチほか				7,439							
車輪(リム・ハブセット)				72,730							
方持ハブ・リムほか				79,273							

活動の様子

平成26年度 大会結果

全国大会

- ・ホンダエコマイレッジチャレンジ2014
(ツインリンクもてぎ 9/27(土)・28(日))
Aチーム ドライバー 機械科3年2組 今泉 春紀
記録 1433.383 km/L 150台中 8位 (県内新記録)
Aチーム ドライバー 情報電子科1年 中島 遼
記録 827.174 km/L 150台中 30位

県大会

- ・第23回 茨城県省エネカー燃費競技大会
(ひたちなかオートモティブシステムズ 10/25(土))
Aチーム ドライバー 機械科3年2組 今泉 春紀
記録 1243.13 km/L 優勝 (参加台数10台)
Bチーム ドライバー 機械科2年2組 加藤木 陸
記録 694.13 km/L 準優勝
・全国大会では県内において 1,400 km/L を超えるのは 最高記録



ホンダエコマイレッジチャレンジ2014全国大会(ツインリンクもてぎにて)

第5回北関東高校生電気自動車大会

- ・第5回北関東高校生電気自動車大会に参加しました。
(GKNドライブラインジャパン株式会社にて 12/14(日))
栃木・茨城・群馬・埼玉の高校18校39台の参加となりました。
結果 総合30位/39台
(タイムアタック 20位, ロングディスタンス 33位)
GKNドライブラインジャパン プルービンググラウンドにて

事業の効果

- ・マシンを製作することによって設計考察力の向上を図る。
- ・マシンを製作することによって各種工作機械の取り扱い方・製作手順や方法を学ぶ。
- ・レースに参加することによって、チームワークの大切さを学ぶ。
- ・燃費競技大会を通じて環境問題やエネルギー問題を身近に考える。

団体名	茨城県立多賀高等学校ボランティア部										
事業名	廃油キャンドルと古い傘で作ったエコバッグ 100万人の Candle Night										
団体構成	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="text-align: right;">高校生</td> <td style="text-align: right;">48名</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">大人</td> <td style="text-align: right;">3名</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">合計</td> <td style="text-align: right;">51名</td> </tr> </table>					高校生	48名	大人	3名	合計	51名
高校生	48名										
大人	3名										
合計	51名										
主な活動場所	多賀市民プラザ，校内，環境フェア会場										
事業目的	身近なものを使ってリサイクルをしたり，エコに関する催しを企画・実行し，環境について考える。										
事業期間	平成26年4月～平成27年3月										
主な活動スケジュール	6月14日（土）100万人の Candle Night in Taga 2014 7月19日（土）エコフェス日立 2014 10月12日（日）はくさんまえ公園まつり										
事業に要した経費	249,937円										
事業に要した経費の内訳											
内 容	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要						
キャンドル材料費				44,002	キャンドル材料						
看板代	個	1	30,000	30,000							
チラシ・ポスター	枚	4,500		49,572	チラシ						
印刷代	枚	150		35,316	ポスター						
多賀市民プラザ使用料				55,380							
交通費・謝礼	人			24,000	講師						
備品・通信費				11,667							

<p>活動の様子</p>	<p>6月14日（土）100万人のCandle Night in Taga 2014</p> <p>茨城環境アドバイザーの藤巻秀和氏に「大気汚染PM2.5について」の講演をいただきました。講演・演奏中は会場の照明を落とし、キャンドルで会場を灯しました。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>7月19日（土）エコフェス日立 2014</p> <p>「廃油キャンドルと古い傘でつくったエコバッグ」のブースを設置し、エコバックやキャンドルを展示するとともに、来場者に廃油で作るキャンドルの作成を体験していただきました。</p> <p>また、2013年度の活動報告書を作り、会場に展示しました。</p>
<p>事業の効果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミとして出していた廃油を集め、キャンドルとして再生したり、使えなくなった傘を使ってエコバッグを作るなど、身近なものを使用してリサイクルすることができるということを、活動の中で感じ、自身の生活にいかしていこうとするきっかけとなった。傘の回収については、これまで処分場から譲っていただいていたのだが、今年度は学校の近くの交流センターで地域に呼びかけてもらい、材料集めにたくさんの方にご協力いただいた。また個人の方々からも傘の寄付があり、活動を通して、地域の方々と一緒にエコやリサイクルについて考える良い機会になった。 ・「100万人のCandle Night in Taga 2014」の計画や準備、開催を通して、改めてエコや地球環境保全に対して、普段の生活の中で心掛けるべきことや、実践していくべきことなどを考えることができた。準備には時間や労力を費やすが、自分たちの行動が周囲を動かす原動力となり、高校生にできる環境保全・エコ活動は何かを考えるきっかけになった。

団体名	久慈小学校児童会				
事業名	久慈小学校区環境保全・美化活動				
団体構成	小学生 321 名 大人 70 名 合計 391 名				
主な活動場所	久慈小学校, 久慈浜海水浴場周辺				
事業目的	地域自然環境に清掃活動や緑化活動等に関わることを通して、環境保全・環境美化意識を高め、愛校心を高めるとともに、自ら環境に働きかけたり、ともによりよく生きようとしてたりする実践力を養う。				
事業期間	平成26年4月～平成27年3月				
主な活動スケジュール	5月 7日(水) 花壇や観察園の苗植え付け 5月10日(土) PTA 奉仕作業 校庭,花壇,学級園の除草作業 7月 3日(木) ゆうゆうタイム (兄弟学級でグループごとの話し合い) 7月14日(月) 久慈浜海岸清掃(兄弟学級) 8月17日(日) PTA 奉仕作業 校庭,花壇,学級園の除草作業 平成26年11月 ～平成27年3月 各教室のプランターで育苗				
事業に要した経費	203,865 円				
事業に要した経費の内訳					
内 容	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
花壇用材料				61,515	種・苗・球根等
土作り用材料				38,842	培養土・牛糞・化成肥料等
栽培用品				24,027	ピート板、ポリ鉢、結束バンド、プランター受け皿等
作業用道具				79,081	移植ごて、ショベル、熊手、角タライ、ホースリール付ホース等
メダカの餌	個	4	100	400	

<p>活動の様子</p>	<p>5月7日(水) 花壇や観察園で苗植え</p>  <p>校庭の各学年の花壇や観察園では、各学年学級ごとに協力しながら、草花の苗植えを行いました。</p> <p>7月14日(月) 久慈浜海水浴場のクリーン作戦</p>  <p>全校生で久慈浜海水浴場のクリーン活動を行いました。保護者の協力も得て、グループごとに協力して久慈浜海水浴場のごみ拾いを行いました。</p> <p>11月～3月 各教室のプランターで育苗</p>   <p>冬の間、温室や校舎内で草花の苗を育苗しました。各教室や廊下でもプランターの草花苗を大事に育苗しました。</p>
<p>事業の効果</p>	<p>花壇やプランターの花作りでは、種から育てた草花の苗を花壇やプランターに植え付けて、学校を花でいっぱいにする事ができた。花壇の美化活動を行うことにより、草花に関心をもち、美しい環境を意識するようになった。花壇の草取りも、各学年の作業やP T A奉仕作業等できれいに行う事ができた。学校のきれいな環境づくりを全校児童みんなの手で進める事ができた。</p> <p>また、久慈地区の久慈浜海水浴場での海岸清掃を行うことにより、地域の一員としての自覚が深まり、地域への郷土愛が育った。さらに、清掃活動を行うことによって、奉仕の気持ちも育てられた。</p>

団体名	日立市立助川中学校				
事業名	ゴミ0（ゼロ）作戦～住みよい地域にするために～				
団体構成			中学生	295名	
			大人	30名	
			合計	325名	
主な活動場所	助川中学校周辺及び通学路ほか				
事業目的	毎月一回登校時の通学路の空き缶・ごみ拾い等の体験活動を通して生徒の環境に対する豊かな感受性を育てながらよりよい環境保全・改善のための主体的に行動する実践的な態度や能力を育成する。				
事業期間	平成26年5月～平成27年3月				
主な活動 スケジュール	<p>5月29日（木）第1回ゴミ0作戦の日</p> <p>以後6月19日（木）・7月10日（木）・9月25日（木）</p> <p>10月23日（木）・11月20日（木）・12月18日（木）</p> <p>2月5日（木）・2月27日（金）・3月13日（金）全10回</p> <p>7月19日（土）環境教育活動発表会で代表発表</p> <p>10月28日（火）環境教育講演会</p> <p>講師：飽本一裕（帝京大学院教授）</p>				
事業に要した経費	100,000円				
事業に要した経費の内訳					
内 容	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
50g表示スケール	台	1	11,880	11,880	
ポスターパネル	一式	1	14,526	14,526	
のぼり旗セット	組	1	20,108	20,108	
フラッグカラー	12色セット	1	19,375	19,375	
刷毛等	セット		3,866	3,866	
ゴミ袋	セット	2	7,000	14,000	
使いきり手袋	セット	1	10,777	10,777	
資料用紙			5,468	5,468	

活動の様子

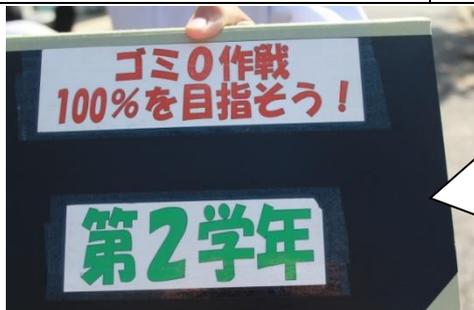
・ゴミ0作戦の日を生徒会常任委員会の環境委員会が話し合いで決める。

・ゴミ0作戦の日の朝は、各自の通学路のゴミを拾い、自分たちの地域をきれいにしながら登校する。

・集められたゴミは委員会の生徒が集め、分別する。

11/20「ゴミ0作戦のゴミの量」学校のHPで毎月報告している。

ゴミの種類別	重量 (kg)
可燃物	4.3
ペットボトル	1.2
不燃物	2.5
アルミ缶	0.8
スチール缶	1.7



・生徒会や委員会の役員は、毎回クラス生徒参加 100%を目指し呼びかけをしている。
 ・毎月 100%達成のクラスを表彰することにより、より意識を高めるようにする。

ゴミ0作戦の日は美術部が制作した「ゴミ0作戦実施中」ののぼり旗が校門と正門に立つ。



事業の効果

通学路や校区内地域及び日立市全体の環境問題について学習を深められた。また、空き缶・ごみ拾い等の活動を通して環境保全・改善に対する意識の高揚と実践能力を育成することができた。

1年生を対象にした環境教育講演会では、「今、自分たちがどうすればいいか」という問いかけに、「これから先、地球で生きていくためには、身近なところからできること、マイバックを活用すること、電気をこまめに消すことなどを心がけるようにして、地球環境にやさしい生活をするようにしたい」という答えを生徒に考えさせることができた。

団体名	油縄子の環境を美しくする会				
事業名	地域花いっぱい・環境美化運動				
団体構成	小学生・中学生・高校生 147名 大人 82名 合計 229名				
主な活動場所	日立特別支援学校及びその周辺				
事業目的	○環境を大切に作る心の教育及び勤労精神を育成する。 ○地域の交流を通して学校や地域を大切に作る心を育成する。				
事業期間	平成26年4月～平成27年3月				
主な活動スケジュール	4月 入学式の会場づくり 5月16日(金) 交流先にあいさつ プランター点検 6月9日(月) オーナーになったりんごの木の見学 6月13日(金) プランター回収 7月上旬 プランターカバーづくり 7月9日(水) 夏の花を届けよう 9月19日(金) 夏の花プランター回収 11月12日(水) りんごの収穫 12月19日(金) 冬の花を届けよう				
事業に要した経費	140,000円				
事業に要した経費の内訳					
内容	単位	数量	単価	金額	摘要
プランター類	個	150	180～	27,353	
種・苗(ビオラ、パンジー等)	本	245	135～	34,680	
プランターカバー製作用木材	セット	3	7,538～	30,285	
りんごの木オーナー代	本	1	10,000	10,000	
育苗ハウス	セット	2	7,425	15,076	
防草シート	枚	1	950	950	
用土類	袋	24	298～	7,382	
肥料類	袋	6	369～	6,665	
緑のカーテン消耗品	セット	1	7,609	7,609	

活動の様子



①いよいよ丹精込めて用意してお花を地域の皆さんに届ける日が来ました。出発前の諸注意です。



②みんなで分担してお届け。学校の周りを花でいっぱいにします。



③これは「アンジーヘアワークス」さんに届けたところ。アンジーさんは学校に来て、達人の技を披露してくれています。この他、近隣のお店や施設など約 20 箇所にお届けしました。



この木のオーナーになりました。1本のりんごの木から、とてもおいしいりんごが、数え切れないほど、とれました。将来、自分たちで植物を育てたいという意欲を高めることができました。

事業の効果

油縄子地区の約 20 箇所にプランターで花を届けることで、

- ① 地区一帯の美観と住民の心のうるおいに寄与した。
- ② 地域の人々がお礼に「仕事の達人」として来校し、子どもたちに働く喜びや仕事へのあこがれを抱かせてくれるようになった。
- ③ 地域の施設や商店が、就労体験の場として積極的に協力してくれるようになった。

団体名	なめかわしぜんたんけんたい										
事業名	滑川地区の自然とふれあおう										
団体構成	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="text-align: right;">幼稚園児</td> <td style="text-align: right;">31名</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">大人</td> <td style="text-align: right;">6名</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">合計</td> <td style="text-align: right;">37名</td> </tr> </table>					幼稚園児	31名	大人	6名	合計	37名
幼稚園児	31名										
大人	6名										
合計	37名										
主な活動場所	日立市立滑川幼稚園周辺ほか										
事業目的	地域の自然を知り、ふれあうことにより生き物（動・植物等）への関心を深め、いのちの大切さを知り、自然保護の意欲をもつ。										
事業期間	平成26年4月～平成27年3月										
主な活動スケジュール	<p>4月24日（木）「春の草花や生き物を採集しよう」 園外保育（幼稚園近隣野原）</p> <p>6月 6日（金）「ホタルの郷を見に行こう」</p> <p>9月 「昆虫採集をしよう」</p> <p>10月24日（金）「いろいろな動物にふれあおう」 園外保育（かみね動物園）</p> <p>30日（木）「たんけんたい農園で芋ほりをしよう」</p> <p>11月17日（月）「地域探検」 園外保育（塩釜神社）</p>										
事業に要した経費	60,006 円										
事業に要した経費の内訳											
内 容	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要						
図鑑	セット	1	円 33,000	円 33,000	記録写真 印画紙用 昆虫植物採集用具						
ポケット図鑑	セット	5	7,000	7,000							
消耗品				20,006							

活動の様子

幼稚園の近くにどんな生きものが住んでいるのかを、空き地に行き探し、チョウやカマキリの卵を発見しました。



野原で虫捕りし、チョウやカマキリの卵を観察したり、友達とその飼育方法などを図鑑で調べたりと、更に興味を持つようになりました。

滑川交流センターが中心となって、小学校となりに『ほたるの里』を作り、観察会をしています。虫について、図鑑で調べ、川を見に行きました。餌のカワニナの生息に気づき、看板の説明写真を興味を持って見ていました。



虫が苦手だった子も、興味を持つことで次第に捕まえられるようになりました。虫捕り網を持ち、園外保育で近くの空き地に行き虫捕りを楽しみました。捕まえた虫を持ち帰り年長児が中心となり、名前や飼育の方法などを積極的に調べました。様々な虫の名前を知り、更に興味を持つことができました。

事業の効果

海・山・川の自然環境に囲まれた、この恵まれた環境を日常の保育に積極的に活用することにより、園児や保護者にも、近隣の自然の素晴らしさを気付かせることができた。また、動・植物に興味を持つことで、大切にしたいという心が育ち、今後更に環境保護にも意識が高まっていくと思われる。

また、日常の保育とは異なる教育活動を積極的に取り入れることで、幼稚園生活に変化や潤いをもたらすことに効果的であることもわかった。自然を取り入れた遊びには、心を揺り動かす体験など、様々な感動体験を教師や友達と共有できるという効果があり、幼児自身の内面の成長につながった。

団体名	大沼ビオトープを守る会				
事業名	大沼小ビオトープを守ろう				
団体構成				小学生	90名
				大人	6名
				合計	96名
主な活動場所	日立市立大沼小学校ビオトープ周辺				
事業目的	学校ビオトープの環境保全				
事業期間	平成26年4月～平成27年3月				
主な活動スケジュール	4月 オリエンテーション モニタリング 5月 3つのプロジェクト(池の中・池の周り・遊歩道)に分かれ、それぞれの場所でモニタリング、課題設定 6月 水生植物、アヤメなどの定植 7月 アジサイの挿し芽 8月 モニタリング活動 9月 秋植えの球根を植えるための準備 10月 ニホンスイセン、ヒガンバナの定植 1月 来年度に引き継ぐための準備 3月 ビオトープ引き継ぎ式				
事業に要した経費	180,000円				
事業に要した経費の内訳					
内 容	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要
鉢花	個	2		2,009	
角材	本	1	3,373	3,373	
ミニスコップ	個	15		1,701	
赤松材	本	4		639	
さし芽種	個	3		2,462	
自動灌水タイマー	個	1	20,520	20,520	
木製物置材料	式	1	139,080	139,080	
スコップ	個	3		7,977	
色画用紙	枚			2,255	

活動の様子

5月 モニタリング

赤羽緑地を守る会からゲストティーチャーをお招きし、アドバイスを受けながらモニタリングを行った。



6月 植物の定植

水生植物やスズラン、アヤメなどの定植を行った。花が咲くと子供たちは喜び、他学年にポスターなどを作り、知らせていた。



10月 ニホンスイセンの定植

5年生が球根を植えるための穴をほったり、肥料をまいたりして準備を進め、一年生と一緒に約100個のニホンスイセンの球根を植えた。



事業の効果

- ・学校ビオトープが、子供自らの手で作り育てる教材として効果を発揮した。
- ・環境を守っていこうとする意欲を高め、自然を大切にしていこうとする心情を育むことができた。
- ・学校ビオトープが来年以降も持続的に維持管理ができるように、管理システムや用具などを整えることができた。

団体名	成沢科学クラブ				
事業名	水力発電について学ぶ				
団体構成				小学生	39名
				大人	3名
				合計	42名
主な活動場所	成沢小学校				
事業目的	発電の仕組み及び身近にあるエネルギー源について学習することにより、省エネルギーなどの環境問題について、自分たちでできることを考え、今後の生活に反映できる子供を育てる。				
事業期間	平成26年6月～平成27年2月				
主な活動スケジュール	6月25日(水) 第1回発電勉強会 7月11日(金) 第2回発電勉強会(発電機作成) 9月24日(水) 第3回発電勉強会(発電の仕組み) 10月22日(水) 第4回発電勉強会(発電量と仕事量の関係) 11月19日(水) 第5回発電勉強会(川で発電機運転) 1月20日(火) 報告会 2月上旬 街灯設置(業者) 2月25日(水) 現地勉強会(クラブ員と地域住民)				
事業に要した経費	450,039円				
事業に要した経費の内訳					
内容	単位	数量	単価	金額	摘要
プロペラモーターアダプタセット		1	25,200	25,200	
手回し発電機		10	1,620	16,200	
光電池用モーター		10	790	7,900	
豆電球ホルダー		10	850	8,500	
上記消費税				4,624	
(小計)				(62,424)	
小水力発電機				93,960	
電気工事費				293,616	
用紙代				39	

活動の様子

7月11日（金）第2回発電勉強会（発電機作成）

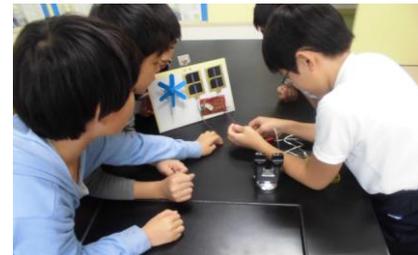


一人一つのパーツの取り付けを行い、全員で発電機を作成する。

9月24日（水）第3回発電勉強会（発電の仕組み）

モーターを回すと発電ができることと、電解質水溶液に2種類の金属を入れると電流が発生することを実験を通して体感する。また、モーターによる発電は発電機、電解質水溶液による発電は乾電池であることを知る。

10月22日（水）第4回発電勉強会（発電量と仕事量の関係）

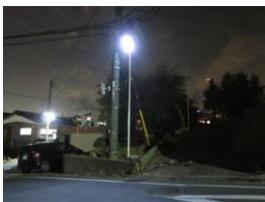
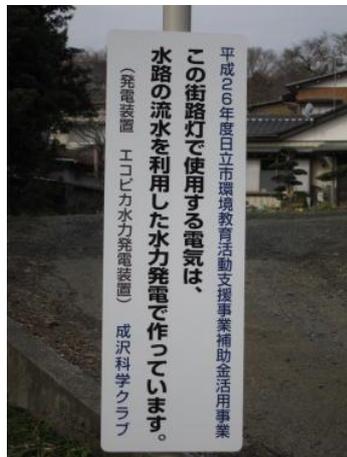


発電機を回して、モーターや豆電球などいろいろな電気製品を稼働する。そのとき手回し発電機を回す抵抗の違いを感じる。次に、モーターや豆電球の数を増やし手回し発電機の手応えが増すことを体感する。このことから、多くの電流を使うためには、多くのエネルギーが必要であることを知り、節電の大切さを学ぶ。

2月上旬 街灯設置



2月25日（水）現地勉強会（クラブ員と地域住民）



事業の効果



本物の発電機を自分たちで作成し、完成させたことにより、小学校では学習しない発電についての研究意欲が高まった。そして、発電機や電池の仕組みを知るだけでなく、多くの電力を発電するには、とても多くのエネルギーが必要であることを体感した。感想をまとめると、「節電の大切さ」を感じた子供がほとんどで、環境問題への意識が大いに高まった。

団体名	チャレンジ大久保実行委員会										
事業名	チャレンジ大久保2014										
団体構成	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="text-align: right;">小・中学生</td> <td style="text-align: right;">16名</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">大人</td> <td style="text-align: right;">6名</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">合計</td> <td style="text-align: right;">22名</td> </tr> </table>					小・中学生	16名	大人	6名	合計	22名
小・中学生	16名										
大人	6名										
合計	22名										
主な活動場所	霞ヶ浦ふれあいランド、大久保交流センター										
事業目的	さまざまな体験を通して、環境教育の大切さを学ぶ機会とする。										
事業期間	平成26年4月～平成27年3月										
主な活動スケジュール	6月12日(木) 第1回実行委員会(8/2実施案) 7月19日(土) 環境教育活動発表会見学 7月19日(土) 第2回実行委員会(10/18に延期決定) 8月7日(木) 第3回実行委員会 9月11日(木) 第4回実行委員会 10月11日(土) 参加者事前研修 10月18日(土) 霞ヶ浦ふれあいランド・茨城空港見学 2月8日(日) 報告会・報告書作成										
事業に要した経費	140,000円										
事業に要した経費の内訳											
内 容	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要						
賃借料	台	1	107,010	107,010	大型バス(行方市)						
謝礼	人	4	1,000	4,000	プログラム支援者						
使用料	回	1	840	840	会議室(シックセンター)						
入場料			14,000	14,000	霞ヶ浦ふれあいランドほか						
教材費			261	261	報告書用紙						
印刷費			5,331	5,331	募集ちらし・しおり						
通信運搬費			7,550	7,550	切手・はがき						
保険料			1,008	1,008	傷害保険						

活動の様子

・ 10月18日（土）霞ヶ浦ふれあいランド&茨城空港見学



霞ヶ浦ふれあいランドで水についていろいろなことを体験しました。



茨城空港についていろいろな説明を受けました。
施設内では木々を多く植栽し、施設内でも空調や電気関係などにエコロジーを取り入れるなど、環境維持に取り組んでいるそうです。

・ 2月8日（日）報告会・報告書作成



最初に当日の写真をスライドで見ました。その後、一人ひとりの感想をポストイットに書いて貼り、班長が全員の感想を読み上げました。イラストも描いた後、報告書として模造紙にまとめをしました。



事業の効果

水と日常生活との関係や、水と環境の関係を理解することで、水を大切にし、また環境問題に取り組む姿勢が生まれました。茨城空港でも、施設の方のお話を聞き、正しい知識を習得することが出来ました。
また、報告会をすることで改めて環境問題に対する意識向上を高めることが出来ました。

日立市環境基本条例

平成 11 年 12 月 22 日

条 例 第 19 号

日立市は、阿武隈山地と太平洋に囲まれた自然環境に恵まれたまちである。先人たちは、これらの自然の恵みの中で生活を営み、住みよいまちを築き上げる努力を続けてきた。

しかしながら、今日の社会経済活動は、利便性の向上と物質的な豊かさをもたらした一方で、資源やエネルギーを大量に消費することなどにより、環境汚染や自然破壊など環境への影響を増大させ、人類の生存基盤である地球環境を脅かすまでに至っている。

私たちは、安全で快適な生活を営むために健全で豊かな環境の恵みを享受する権利を有するとともに、その環境を将来の世代に引き継いでいく責務を有する。

私たちは、生態系の一部として存在し、限りある環境から多くの恵みを受けていることを自覚し、人と自然との共生を適切に確保するとともに、環境への負荷の少ない持続的な発展が可能な社会を構築していくため、市民、事業者及び市が連携し、協力し合って、良好な環境を創造していく社会を目指すことを決意し、この条例を制定する。

第1章 総 則

(目 的)

第1条 この条例は、環境の保全及び創造について、基本理念を定め、並びに市、事業者及び市民の責務を明らかにするとともに、環境の保全及び創造に関する施策の基本となる事項を定めることにより、環境の保全及び創造に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、もって現在及び将来の市民の健康で文化的な生活の確保に寄与することを目的とする。

(定 義)

第2条 この条例において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

- (1) 環境への負荷 人の活動により環境に加えられる影響であって、環境の保全上の支障の原因となるおそれのあるものをいう。
- (2) 地球環境保全 人の活動による地球全体の温暖化又はオゾン層の破壊の進行、海洋の汚染、野生生物の種の減少その他の地球全体又はその広範な部分の環境に影響を及ぼす事態に係る環境の保全であって、人類の福祉に貢献するとともに、市民の健康で文化的な生活の確保に寄与するものをいう。
- (3) 公害 環境の保全上の支障のうち、事業活動その他の人の活動に伴って生ずる相当範囲にわたる大気汚染、水質汚濁（水質以外の水の状態又は水底の底質が悪化することを含む。）、

土壌の汚染、騒音、振動、地盤の沈下（鉱物の掘採のための土地の掘削によるものを除く。）及び悪臭によって、人の健康又は生活環境（人の生活に密接な関係のある財産並びに人の生活に密接な関係のある動植物及びその生育環境を含む。以下同じ。）に係る被害が生ずることをいう。

（基本理念）

第3条 環境の保全及び創造は、現在及び将来の市民が健全で豊かな環境の恵みを楽しむとともに、人類の存続の基盤である限りある環境が将来にわたって維持されるように適切に行われなければならない。

2 環境の保全及び創造は、人と自然とが共生できるような多様な自然環境が体系的に保全されるように行われなければならない。

3 環境の保全及び創造は、環境への負荷の少ない持続的な発展が可能な社会が構築されることを目的として、市、事業者及び市民の公平な役割分担の下に自主的かつ積極的に行われなければならない。

4 地球環境保全は、市、事業者及び市民が自らの課題であることを認識して、それぞれの事業活動及び日常生活において積極的に推進されなければならない。

（市の責務）

第4条 市は、前条に定める基本理念（以下「基本理念」という。）にのっとり、環境の保全及び創造に関する基本的かつ総合的な施策を策定し、及び実施する責務を有する。

（事業者の責務）

第5条 事業者は、基本理念にのっとり、その事業活動を行うに当たっては、これに伴って生ずる公害を防止し、又は自然環境を適正に保全するため、必要な措置を講ずる責務を有する。

2 事業者は、基本理念にのっとり、物の製造、加工又は販売その他の事業活動を行うに当たっては、その事業活動に係る製品その他の物が廃棄物となった場合にその適正な処理が図られるように必要な措置を講ずる責務を有する。

3 前2項に定めるもののほか、事業者は、基本理念にのっとり、物の製造、加工又は販売その他の事業活動を行うに当たっては、その事業活動に係る製品その他の物が使用され、又は廃棄されることによる環境への負荷の低減に資するように努めるとともに、その事業活動において、再生資源その他の環境への負荷の低減に資する原材料、役務等を利用するように努めなければならない。

4 前3項に定めるもののほか、事業者は、基本理念にのっとり、その事業活動に関し、これに伴う環境への負荷の低減その他環境の保全及び創造に自ら努めるとともに、市が実施する環境の保全及び創造に関する施策に積極的に協力する責務を有する。

(市民の責務)

第6条 市民は、基本理念にのっとり、日常生活に伴う環境への負荷の低減に努めなければならない。

2 前項に定めるもののほか、市民は、環境の保全及び創造に自ら努めるとともに、市が実施する環境の保全及び創造に関する施策に積極的に協力する責務を有する。

第2章 環境の保全及び創造に関する施策の基本方針

(施策の基本方針)

第7条 市は、環境の保全及び創造に関する施策を策定し、及び実施するに当たっては、基本理念にのっとり、次に掲げる事項を基本として、各種の施策相互の有機的な連携を図りつつ、これを総合的かつ計画的に行わなければならない。

- (1) 人の健康を保護し、及び生活環境を保全し、並びに自然環境を適正に保全するように、大気、水、土壌その他の環境の自然的構成要素を良好な状態に保持すること。
- (2) 生態系の多様性の確保、野生生物の種の保存その他の生物の多様性の確保を図るとともに、森林、緑地、水辺等における多様な自然環境を地域の自然的社会的条件に応じて体系的に保全すること。
- (3) 人と自然との豊かな触れ合いを保つとともに、身近な緑や水辺などに恵まれた生活環境の確保、地域の特性が生かされた良好な景観の形成及び歴史的文化的資源の保全を図ること。
- (4) 資源の循環的な利用、エネルギーの有効利用及び廃棄物の減量を推進することにより、環境への負荷の低減を図ること。
- (5) 地球環境保全の推進を図ること。

(環境基本計画)

第8条 市長は、環境の保全及び創造に関する施策を総合的かつ計画的に推進するための基本となる計画（以下「環境基本計画」という。）を定めなければならない。

2 環境基本計画は、次に掲げる事項について定めるものとする。

- (1) 環境の保全及び創造に関する総合的かつ長期的な目標及び施策の大綱
- (2) 前号に掲げるもののほか、環境の保全及び創造に関する施策を総合的かつ計画的に推進するために必要な事項

3 市長は、環境基本計画を定めるに当たっては、市民の意見を反映することができるように必要な措置を講ずるものとする。

4 市長は、環境基本計画を定めるに当たっては、あらかじめ日立市環境審議会の意見を聴かなければならない。

5 市長は、環境基本計画を定めたときは、速やかに、これを公表しなければならない。

6 前3項の規定は、環境基本計画の変更について準用する。

第3章 環境の保全及び創造のための基本的施策

(施策の策定等に当たっての配慮)

第9条 市は、環境に影響を及ぼすと認められる施策を策定し、及び実施するに当たっては、環境の保全及び創造について配慮しなければならない。

(規制等の措置)

第10条 市は、環境の保全上の支障を防止するため、次に掲げる規制の措置を講ずるものとする。

- (1) 公害を防止するために必要な規制の措置
- (2) 自然環境の適正な保全に支障を及ぼすおそれがある行為に関し、その支障を防止するために必要な規制の措置

2 前項に定めるもののほか、市は、人の健康又は生活環境に係る環境の保全上の支障を防止するため、必要な規制及び指導の措置を講ずるように努めなければならない。

(環境影響評価の推進)

第11条 市は、土地の形状の変更、工作物の新設その他これらに類する事業を行う事業者が、その事業の実施に当たりあらかじめその事業に係る環境への影響について自ら適正に調査、予測又は評価を行い、その結果に基づき、その事業に係る環境の保全について適正に配慮することを推進するため、必要な措置を講ずるものとする。

(環境の保全に関する協定)

第12条 市は、環境の保全上の支障を防止するため、事業者又は開発行為を行おうとする者と環境の保全に関し必要な協定を締結するように努めるものとする。

(経済的措置)

第13条 市は、事業者及び市民が自ら環境への負荷の低減のための施設の整備その他の環境の保全及び創造に資する措置をとることを助長するため必要があるときは、適正な助成その他の措置を講ずるように努めるものとする。

(環境の保全に関する施設の整備の推進)

第14条 市は、環境への負荷の低減のための施設の整備及び公園、緑地その他の快適な生活の確保のための施設の整備を推進するため、必要な措置を講ずるものとする。

(資源の循環的な利用等の促進)

第15条 市は、資源の循環的な利用、エネルギーの有効利用並びに廃棄物の減量及び適正処理に関し、必要な措置を講ずるものとする。

(環境の保全及び創造に関する教育等の推進)

第16条 市は、環境の保全及び創造に関する教育、学習の振興並びに広報活動の充実により、事業

者及び市民が環境の保全及び創造についての理解を深めるとともに、これに関する活動を行う意欲を増進させるため、必要な措置を講ずるものとする。

（市民等の自発的な活動の促進）

第17条 市は、市民、事業者又はこれらの者の組織する民間の団体（以下「市民等」という。）が自発的に行う緑化活動、再生資源の回収活動その他の環境の保全及び創造に関する活動の促進を図るため、必要な措置を講ずるものとする。

（情報の提供）

第18条 市は、前2条に定める事項を推進するため、個人及び法人の権利利益の保護に配慮しつつ環境の状況並びに環境の保全及び創造に関する活動の事例その他の環境の保全及び創造に関し、必要な情報を適切に提供するように努めるものとする。

（調査の実施）

第19条 市は、環境の状況の把握、環境の変化の予測に関する調査その他の環境の保全及び創造に関する施策の策定に必要な調査を実施するものとする。

（監視等の体制の整備）

第20条 市は、環境の状況を把握し、環境の保全及び創造に関する施策を適正に実施するために必要な監視、測定等の体制の整備に努めるものとする。

（事業者の環境管理等の促進）

第21条 市は、事業者がその事業活動に伴う環境への負荷の低減について効果的に取り組めるように、事業者が自ら行う環境管理（環境の保全及び創造に関する方針の策定、目標の設定、計画の作成、体制の整備等をいう。）及びこれに関する監査等が促進されるように必要な措置を講ずるものとする。

（市民等の意見の反映）

第22条 市は、環境の保全及び創造に関する施策に、市民等の意見を反映させるために必要な措置を講ずるものとする。

（市民等との協力）

第23条 市は、市民等と協力して、環境の保全及び創造を推進するために必要な措置を講ずるものとする。

（国及び他の地方公共団体との協力）

第24条 市は、広域的な取組が必要とされる環境の保全及び創造に関する施策について、国及び

他の地方公共団体と協力して、その推進に努めるものとする。

(地球環境保全に関する国際協力)

第25条 市は、国、他の地方公共団体及び市民等と連携し、地球環境保全に関する国際協力の推進に努めるものとする。

第4章 環境審議会

(環境審議会の設置等)

第26条 環境の保全及び創造に関する基本的事項を調査審議するため、日立市環境審議会(以下「審議会」という。)を置く。

- 2 審議会は、市長が委嘱又は任命する委員20人以内をもって組織する。
- 3 審議会の委員の任期は、2年とする。ただし、欠員を生じた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 4 審議会は、第1項に規定する調査審議を行うために必要があるときは、関係者の出席を求めて意見若しくは説明を聴き、又は関係者から資料の提出を求めることができる。
- 5 審議会の委員は、職務上知り得た秘密を漏らしてはならない。その職を退いた後も同様とする。
- 6 前各項に定めるもののほか、審議会の組織及び運営に関し必要な事項は、市長が規則で定める。

第5章 雑則

(年次報告)

第27条 市長は、環境の状況並びに環境の保全及び創造に関して講じた施策を明らかにした年次報告書を作成し、これを公表しなければならない。

(個別条例の制定)

第28条 この基本条例の施行に必要な個別条例は、別に定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この条例は、公布の日から施行する。

(日立市環境をまもる基本条例の廃止)

- 2 日立市環境をまもる基本条例(昭和49年条例1号)は、廃止する。

(経過措置)

- 3 この条例の施行の際現に日立市公害対策審議会規則(昭和49年規則第62号)第2条の規定により委嘱又は任命された日立市公害対策審議会の委員である者は、この条例の施行の日、第

26条第2項の規定により、審議会の委員として委嘱又は任命されたものとみなす。この場合において、その委嘱又は任命されたものとみなされる者の任期は、同条第3項の規定にかかわらず、同日における日立市公害対策審議会規則第3条の規定により委嘱又は任命された日立市公害対策審議会の委員としての任期の残任期間と同一の期間とする。

(日立市特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正)

4 日立市特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例（昭和31年条例第24号）の一部を次のように改正する。

別表附属機関の項中「公害対策審議会」を「環境審議会」に改める。

(日立市公害防止条例の一部改正)

5 日立市公害防止条例（昭和49年条例第36号）の一部を次のように改正する。

第1条中「日立市環境をまもる基本条例（昭和49年条例第1号）」を「日立市環境基本条例（平成11年条例第19号）」に改める。

第4条及び第5条を次のように改める

第4条及び第5条 削除

(日立市緑の保全と緑化の推進に関する条例の一部改正)

6 日立市緑の保全と緑化の推進に関する条例（昭和52年条例第4号）の一部を次のように改正する。

第1条中「日立市環境をまもる基本条例（昭和49年条例第1号）」を「日立市環境基本条例（平成11年条例第19号）」に改める。

(日立市空き缶等の散乱の防止に関する条例の一部改正)

7 日立市空き缶等の散乱の防止に関する条例（平成6年条例第2号）の一部を次のように改正する。

第1条中「日立市環境をまもる基本条例（昭和49年条例第1号）」を「日立市環境基本条例（平成11年条例第19号）」に改める。

(日立市飼い犬のふん害の防止に関する条例の一部改正)

8 日立市飼い犬のふん害の防止に関する条例（平成10年条例第2号）の一部を次のように改正する。

第1条中「日立市環境をまもる基本条例（昭和49年条例第1号）」を「日立市環境基本条例（平成11年条例第19号）」に改める。

日立市環境都市宣言

—うるおいが活力を生むまち—

日立市は、朝日立ち昇る太平洋とみどりの阿武隈山地に囲まれた、四季の彩り美しい近代産業のまちです。

かつて、鉱山の煙害や河川の汚濁など深刻な公害問題に直面した時代がありましたが、大煙突建設、大島桜の植栽、下水道整備に見られるように市民、企業、行政が協力し、問題を解決してきた誇らしい歴史を持っています。

しかし近年、私たちは、ごみ問題、生態系破壊、地球温暖化、オゾン層破壊など、新しく困難な問題を抱えることになってしまいました。

これら環境問題の最大の被害者は、これから後の世代です。将来の市民に対し、環境と活力の調和した、持続可能な社会を創ることが、今に生きる私たちの使命です。

私たちは、今こそ先人の偉業に学び、協力して問題に取り組み、「いのち」の共生するこの環境を未来に引き継ぐことを決意して、ここに「環境都市・日立」を宣言します。

- ◎ 私たちは、山・川・海など恵み多い自然と共に生きられるよう、この自然環境をまもり、育てていきます。
- ◎ 私たちは、地球環境にやさしい循環型社会を創るため、一人ひとりが、省資源、省エネルギー、リサイクルに心がけた生活をおくります。
- ◎ 私たちは、環境の歴史的シンボルである「さくら」を愛し、美しく快適なまちを創ります。
- ◎ 私たちは、ものづくりの精神を活かし、環境にやさしい技術の開発や活用に努めます。
- ◎ 私たちは、一人ひとりが、学び、考え、行動し、市民・企業・行政のパートナーシップでより良い環境を創っていきます。

平成17年3月25日

日立市環境教育基金に賛同いただいている団体について

日立市環境教育基金は、環境教育活動支援事業に賛同いただける団体からの寄付に支えられています。

賛同いただいている団体名	寄付の内容	寄付年度
新日鉱ホールディングス株式会社 (現 JX 日鉱日石金属株式会社)	創業 100 周年記念事業	H18
株式会社セイブ	レジ袋の収益金	H21~25
株式会社サンユーストアー	レジ袋の収益金	H21,22,25
生活協同組合パルシステム茨城	レジ袋の収益金	H21~25
十王町地産地消施設利用組合	レジ袋の収益金	H21~23
うかる文化振興委員会	イベント余剰金	H20~22
日立市多賀農業協同組合	レジ袋の収益金	H21~25
和田ストアー	レジ袋の収益金	H21

環境教育活動支援事業に賛同いただき、日立市環境教育基金へ寄付を頂ける場合は、日立市環境政策課まで御連絡ください。

日立市生活環境部環境政策課

〒317-8601 日立市助川町1-1-1

電話 0294-22-3111 (内線297)

FAX 0294-21-5016

E-mail kansei1@city.hitachi.lg.jp

平成 26 年度日立市環境教育活動支援事業補助金

活用団体事業報告書

2015年6月発行

編集・発行：日立市 生活環境部 環境政策課

〒317-8601 日立市助川町 1-1-1

電話 0294-22-3111(内線 297) FAX 0294-21-5016